

情報連絡員だより

－平成30年11月分の報告より－

前月から一転、  
厳しい業況に逆戻り

業種 / 景況天気図		概況
全	体	好調だった前月から一転、厳しい業況となる。非製造業では5業種中3業種で悪化し、特に卸売業の後退が著しい。一方、製造業では機械・金属を中心に、自動車メーカーのリコール問題の影響で、業況が悪化している様子がうかがえる。また、気温の高い日が続いた影響が業種によって明暗を分けた状況も見受けられる。
製 造 業	食料品	パンは、前年並みに推移。菓子は、前月同様、原材料の小豆値上げの影響で収益減少。製麺は、原材料値上げを商品に転嫁できないことに加え、荷動き悪化により売上・収益ともに減少。酒造は、純米酒は苦戦するも純米吟醸酒の売上が順調で前年並み。食肉は、と畜頭数は多かったものの販売価格低下により売上減少。
	繊維・同製品	桐生織物は、婦人服地は前年並みに推移、輸出向けは低調に推移、和装織物は端境期に入り夏物に期待感。伊勢崎織物は、小巾織物が厳しく広巾織物が好調な状態が継続。ニットは、冬物の出荷が終わってしまった企業と追加で忙しい企業の二極化がみられる。繊維製品は、暖かい日が続いた影響で冬物の売れ行きが悪化。
	窯業・土石製品	コンクリートブロックは、大阪北部地震の影響で需要に停滞感。生コンは、地域によって出荷量にばらつきがあるものの、全体として前年並み。コンクリート製品は、依然として厳しい状況が続いているが生産量が上向きつつある。砕石は、工事発注の動きがみられるが、事業量が少ないため出荷量が減少し厳しい状況。
	機械・金属	自動車関連は、トラックやバスなど商用車に動きがみられる一方、SUBARU関連は、一連のリコール問題の影響により売上減少となる。鍍金も、自動車部品関連においてリコール問題の影響がみられる。電機関連は、一部企業で部品や材料の入手難がみられるが前月に引き続き好調を維持。
	その他の製造業	ゴム製品は、原材料メーカーからの価格改定の動きがみられ、対応に苦慮。木材は、原木の減少による仕入単価上昇による収益悪化が続く。紙加工品は、飲料・電機関係は好調である一方、東毛地域の自動車関係で落ち込みがみられる。印刷は、企業間にばらつきがあるものの、全体的な業況感に明るさがみられる。
非 製 造 業	卸売業	高崎卸団地・前橋卸団地は、依然として人手不足感が強い。太田卸団地は、建材卸関係で地方発送商品において輸送費の負担増が見受けられる。農産物卸は、平年よりも高い気温による年末年始用野菜の前倒し出荷の影響で相場が冷え込む。水産物卸は、前年に比べ売上・収益ともに減少、正月商品に期待感。
	小売業	中古車オークションは、記念行事等が売上増加に寄与。燃料小売は、高値水準が続いており売上増加。生花小売は、11月は物日がないこともあり前年並み。商店街は、暖かい日が続いたことで一部イベントで集客がみられるが、秋冬物商品の売れ行きが低迷。家電は、4Kテレビの需要が低迷し売上は前年並みにとどまる。
	サービス業	温泉旅館は、天候に恵まれたことで紅葉の見ごろを過ぎても客足が好調、一部地域ではテレビ番組で紹介されたことによる入込客の増加もみられる。太田市域における不動産取引は、前年に比べ条件の良い物件が減少しており、売上は減少傾向。自動車整備・建築設計は、売上・収益ともに前年並みに推移。
	建設業	建設工事は、公共・民間工事ともに停滞傾向が続く。解体工事は、ホテルの改修工事やブロック塀解体工事の発注が増加。電気工事は、年末に向けて受注の増加がみられる。塗装工事は、県外の工事増加に伴う交通費負担増加が収益圧迫。鉄構は、工場稼働率は高水準で推移しているものの、図面遅れや工期遅れを懸念。
	運輸業	全体的に、燃料価格上昇が一段落したが高値である状態に変わりなく、引き続き価格動向を注視している様子がうかがえる。野菜関連は、暖冬によるほうれん草、ブロッコリー等の収穫量増加に伴い輸送量増加。小口配送は、食料品・家電・PETが好調であるものの、建材関係の遠方輸送減少により売上・収益ともに前年並み。